

会議録

会議の名称	第1回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成24年5月24日（木曜日） 14時00分から15時50分まで
開催場所	エコプラザ西東京 多目的ホール
出席者	審議会委員：山谷会長、一方井副会長、下田委員、石井委員、笠原委員、本橋委員、斉藤委員、高橋委員、鹿島委員、小林委員、竹村委員（全11名） 事務局：金谷部長、小関課長、岡本係長、藤巻係長、三村統括技能長、小路口主事
議題	(1) 一般廃棄物処理基本計画について (2) その他
会議資料の名称	資料1 市民意見提出手続制度（パブリックコメント）市民意見への検討結果 資料2 家庭ごみ原単位の削減（毎年1パーセント減）に向けた家庭での取り組み
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>人事異動に伴う事務局職員の紹介 一般廃棄物処理基本計画について説明（事務局）</p> <p>○山谷会長： 議題の「一般廃棄物処理基本計画」の説明をお願いします。</p> <p>事務局： パブリックコメントを2月1日から2月14日まで行った結果、3人から12件の意見が寄せられた。（各質問について説明） 一般廃棄物処理基本計画の目標値として、家庭ごみを一人1日あたり約4グラム減量することとした。</p> <p>一方井委員： それは小さじ一杯程度ということか。</p> <p>事務局： A4用紙一枚程度の重さである。 1パーセント減に向けた、家庭でできる取り組みとして、水切り・乾燥及びそれに使用できる道具を紹介する予定である。</p>	

○一方井委員：

夏場、大型スーパーで保冷材の大量使い捨てが目立つ。リサイクルできないか。また、卵パック・トレイを回収しやすくできないか。

○事務局：

保冷材は現状不燃ごみで出している。

○本橋委員：

保冷材は中身をそのまま流してしまうことも多い。

○鹿島委員：

今回の一般廃棄物処理基本計画は非常によくまとまっている。しかし、大型住宅、人口増加に伴う「ごみの個人意識と地域全量」を市民に伝えて行くことを考えていかなければならない。

マイバッグについてだが、某スーパーではレジ袋を完全に廃止した。しかし、意外なことに若者にも受け入れられているようだ。

○高橋委員：

人口推移はどうか。

○事務局：

大型住宅は近年がピークと考えている。しかし、緑地を戸建て住宅に変える流れがある。平成27年から高齢化等がピークを迎える。

○本橋委員：

市のホームページ上で動画紹介をやってみてはどうだろうか。例えばそこで水切りの方法等を紹介するのはどうか。雑紙類の分類も、そこでわかりやすく説明するのはどうか。

○本橋委員：

マンション管理人が膨大な量の紙ごみを、細かく分別しているのを見かける。雑紙リサイクルの基準をはっきりすべきではないか。

○事務局：

動画紹介については検討してみたい。雑紙については「リサイクルに回しては絶対だめ」というものもいくつかある。しかし、それ以外で迷うものは、ある程度古紙リサイクルに回してもよい。古紙業者も、回収後にある程度選別している。なお、「紙」マークは「リサイクルできる」という意味ではない。

○本橋委員：

市のホームページが難しければ、個人でユーチューブ等による配信でも良いのではないか。ビニールコーティングされた紙は資源か。

○事務局：

破いて、ビニールが残るようなものはリサイクルできない。

○鹿島委員：

高齢者が戸建て住宅から老人ホームに移行すると、大量にごみと整理品が出る。行政はそれに関わっているのか。

○事務局：

市が委託している、信頼できる業者を紹介するという形で関わっている。年に約100件は紹介しており、市民に安価で貢献させてもらっている。よくチラシを配布しているような業者は料金が高く、悪質な場合があるので注意が必要である。

○本橋委員：

動画を市で作るのが難しいのなら、西東京市清掃事業協同組合等が動画やホームページを作り、そのリンクを市のホームページに貼ってみてはどうだろうか。市が委託している業者のPRにもつながる。

○事務局：

西東京市清掃事業協同組合もホームページ作成を検討しているので、併せて 協力を考えてみる価値はある。東京都の事例もあり、参考にできると思われる。行政としては生ごみ減量と水切りを重視したい。これを訴えるためにキャッチコピーを提案中である（資料説明及び事例紹介）。

○山谷会長：

それはよい案だと思う。

○高橋委員：

「ごみ減量で『護美』を増やそう」ということを推したい。また水切りの道具を市で紹介してみてもどうか。

事務局：

このようなものが水切り用としてあるので見ていただきたい（水切道具紹介）。

高橋委員：

力のない老人や女性には水を絞るのが厳しいと思う。空気抜きの要領で、何か手軽にできるものはないか。

鹿島委員：

「断捨離」等物の整理処分が流行っているが、「整理されたもの」の「その後」について意識がない。その辺に踏み込めないか。

石井委員：

キャッチコピーで「大きじ3杯」だけだと、どんな状況からかどれだけ減らすべきなのか想像しにくい。

一方井委員：
どれだけの量に、またどれほどの期間取り組むべきか等、もう少しわかりやすくできないか。

山谷会長：
「ビール1缶」等、もっとわかりやすいものはないか。

事務局：
我々もそれには苦心した（「梅干し一個分」「卵一個分」等。）イメージのしやすさについては腐心している。

高橋委員：
「ビー玉」はどうか。

事務局：
ただ「大さじ〇杯」といったフレーズは他自治体も使っている。今回で決めたキャッチフレーズを10年間ずっと使い続けるというのではなく、いろいろと変化させていきたい。

山谷会長：
雑紙について、「古紙業者からの紙袋を提供する」という案は、具体的にはどうするのか。

事務局：
50世帯程度の集合住宅をモデル事業として試行したいと考えている。古紙業者が回収する。

山谷会長：
住居の形態別の組成分析は行ったのか。

事務局：
1年間行ってきたが、やはり集合住宅が課題であると考えている。

山谷会長：
男性は紙を分別しない傾向があるように思われる。

事務局：
病院や警察寮の、単身世帯のごみ分別は最もひどい。

山谷会長：
ダイレクトメール等を、ビニール付きでそのまま捨てないか不安がある。

一方井委員：
大家、管理人が紙袋を提供しているのを最近見かける。
しかし、個人情報の保護も問題とを感じる。名前、住所を切り刻むのも面倒なことが多い。

陶器リサイクルについては良いと思う。武蔵野市でも取り組んでいる。

本橋委員：

1パーセント削減についてのキャッチコピーは、市民公募の方が良いのではないか。一方的にやるだけでは市の重点事業になりにくいのではないか。一方的に市から「答え」を与えるのではなく、市民に「考える機会」を持たせた方が良いのではないか。

山谷会長：

水切りというのは、なかなか盲点だと思われる。

事務局：

皆さんから頂いた貴重なご意見や札幌市等を参考にして、ごみの減量化への一助とした
い。

山谷会長：

まずは何かしらのアクションを起こすことが必要であると思う。是非、早めの行動をお願いしたい。

何もなければ次に議題のその他に入るが、事務局から何かあるか。

事務局：

ごみゼロデーが5月26日（土曜日）午前中に実施される。また、環境フェスティバルが5月27日（日曜日）、10時から3時まで実施される。

山谷会長：

他に何もなければ本日の会議は終了する。